

社会を明るくする運動

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。

重点目標

犯罪や非行を防止するとともに、罪を犯した人や非行に陥った少年の更生を支え、ふれあいのある明るい地域づくりに参画する。

統一標語

「ふれあいと 対話が築く 明るい社会」

社会を明るくする運動の誕生

戦後間もない昭和24年ころ、貧困からくる子どもたちの非行が、大きな社会問題となっていました。そのとき、東京・銀座商店街の延べ2,000人もの人々が立ち上がり「不幸な子どもたちを救いませう」の立看板を掲げ、真夏の炎天下、犯罪予防と少年保護を訴える「銀座フェア」を開催しました。この市民の活動がきっかけとなって昭和26年から法務省主唱の「社会を明るくする運動」が始まりました。



狂言を通して子どもたちとのふれあいを大切にしています。これからも「社会を明るくする運動」を応援します。

狂言師／野村萬斎

市職員による清掃活動の様子



不法投棄は
やめましょう！
都留市役所

環境首都山梨クリーンキャンペーン実施要綱に基づき、都留市においても職員三十名により城山厚原線と玉川与縄線の両峠の清掃活動を去る五月三十一日に行い二トンダンプで四台分の粗大ゴミなどを撤去処分しました。また、地域の清掃に付きましても自治会の皆さんのご協力をよろしくお願いします。

市職員清掃活動報告

風水害・土砂災害への備えは十分ですか

毎年台風や集中豪雨などを原因とした、土石流・地滑り・山崩れ・崖崩れなど、一瞬にして尊い人命や財産を奪い去ってしまう痛ましい状況が報じられますが、日ごろから家の周囲の危険と思われる場所をチェックし、避難場所や避難経路について話し合っておくことが大切です。

台風が近づいたり、大雨になるような時は、テレビ・ラジオなどによる情報を参考に、十分な注意や対応を取るようにしましょう。

危険だと思ったら近所に声をかけ、協力して早めに避難しましょう。

避難の際は、動きやすく安全な服装で、荷物は最小限にし、落ちついて行動し、高齢者や子供、病弱な家庭では、明るいうちに避難するなど、早いうちに安全に避難することを心掛けましょう。

梅雨明けは、大雨や集中豪雨の時期です、災害に対して十分に備えておきましょう。